

建築士会全国大会「栃木大会」セッションB報告

大谷石を活かしたまちづくり 「宇都宮から・地方都市の再生」

武井貴志
栃木県建築士会宇都宮支部
まちづくり委員会委員長



昨年10月20日、宇都宮にて建築士会全国大会が開催されました。大会は全国の建築士が年に一度会する5千人規模のものです。宇都宮支部まちづくり委員会では、セッションBを受け持ち、これまで行ってきた大谷石を活かしたまちづくり活動を発表する機会を得ました。

セッションのテーマは、「宇都宮から・地方都市の再生」。参加建築士に向けて、地域性を活かした地方都市活性化のヒントを示す事が一次の目標でした。

同時に私たちは、このセッションとその準備活動が、宇都宮の様々なまちづくり活動の交差点になるのではないかと考えました。そのため、



会場は沢山の参加者で賑わいました

セッションの対象を建築士以外にも広げ、大谷石研究会、まちづくり推進機構、商工会、JAZZ関係団、カクテル関係、店主、行政、教育機関等に企画段階からの参加を呼びかけ、まちづくりの横断的イベントを目指しました。

当日会場には、宇都宮市街地石蔵調査や石空間散策コース、またなか探険記、大谷石建造物を活かしたまちづくりの提案など、私たちのこれまでの活動を示すパネルや模型のほか、大谷石百選、JAZZの街宇都宮開演、宇都宮出身の野口久光（JAZZ評論家・画家）による映画ポスターを展示し、この街の独自性を発信しました。また、大会のメインロビーには、県産の大谷石、杉、和紙、竹を融合した鎌田泰二氏によるオブジェを展示し、より横断的に地域性の理解を深める試みを行いました。

な風景や人々の話の中に街の宝は埋まっている。それらを丁寧に拾い上げて集める事が街を愛する事につながり、楽しめる街につながる。そんな気持ちを共有する事が出来たのではないのでしょうか。

午後のセッションは、私たちのまちづくり提案3題、「カテドラルストリートプロジェクト」「清住JAZZ広場プロジェクト」「日野町ネットワークプロジェクト」の発表を受けて、これからの宇都宮をどう活性化していくのか、パネルディスカッションを行いました。市街地の石蔵活用方法、課題、点在する石蔵を宇都宮の景観要素として顕在化するには何が必要なのか。いかにして点を線にするのか。大谷石とJAZZを結びつける事で、宇都宮独自の体験を生み出せないか。課題が続出して多くの宿題をいただきましたが、明日の宇都宮が目指す方向が見えて来たように思えました。

次の日21日、参加建築士のために見学会を行いました。宇都宮コープは市内の大谷石建造物を巡った後、若山農場の竹林を経て、大谷地区をご案内しました。案内資料には伏せていたのですが、最後の大谷資料館ではサックス奏者の岡田嘉満氏に演奏をお願いしました。資料館の大空間に響き渡るサックスの音色は独特であり、まさにここでしか聴けない音色に変化していました。

私たちが目指すもの、そして地方都市が生き抜く為に必要な物は、この二日間のセッションで示された。「そこでしか体験出来ないもの」をいかに見つけ出し育むかではないでしょうか。宇都宮には大谷石があります。この独自性をいかに活かし、

守り、育み、何と結びつけ、発信するか。
私たちの活動の中間報告でありながら区切りになるような会議を目指していました。何かが明確になるような、活動の質が変わるような、そんな大会になり得たのかどうか、現時点では不明です。後に振り返って気が付く事になるのでしょうか。これからです。
ご参加くださり、課題を投げかけて下さった多くの方々感谢您的いたします。



「清住 JAZZ 広場プロジェクト」



「大谷石百選」のパネルも展示しました

国指定名勝

「大谷の奇岩群 御止山 越路岩」

栃木県では「華厳の滝・中禅寺湖」に次ぐ二番目75年ぶり

平成18年7月28日、大谷の奇岩群のうち、御止山と越路岩の二箇所が、国の名勝に指定されました。名勝とは、国内の自然的・人文的景勝地の中で、鑑賞上の価値の高い場所が該当します。有名な場所として、自然的名勝は群馬の「妙義山」や宮城の「松島」等、人文的名勝は、水戸「偕楽園」や金沢の「兼六園」等があります。

「大谷の奇岩群」は、凝灰岩の奇岩群によって醸し出される独特の風景を、江戸時代後期の紀行文をはじめ、川上澄生の版画、山口青邨の俳句などに採り上げられたように、古くから人々に賞賛され、他の名勝と同等の価値を有している景勝地であることが今回評価されました。また、近々ダンスパフォ



御止山を景観公園から望む



越路岩を北側の水田から望む

大谷寺の御詠歌にまつわる話

坂東33ヶ所観音霊場19番札所である大谷寺には、「名を聞ば 深き恵みの大谷寺 祈る誠のしるしなるかな」といった御詠歌があり、次のような逸話が伝えられている。

「当山の本尊は大きな岩であるので、罪が重い者は御姿を拝む事はできない。昔、三河国吉田に一人の農民がいた。家が貧しかったので、妻と三歳の息子の源三郎を残して鎌倉へ稼ぎに行ったところ、下野国宇都宮の女に馴染み、ついにその女の里へ行ってしまった。一方、国の妻は亡くなり、源三郎は十二歳になって、父に会おうと乞食をして当国へ来た。観音の利益によって、父子の対面を果たした霊験がある。」
父子が再会できたのは、観音様のご利益という。ところで、夫の不貞については記されていない。観音様は、許してくれたのだろうか。

大谷の民話・史跡あれこれ

会員紹介

NPO法人大谷石研究会 顧問

小西敏正 宇都宮大学 教授
工学部建設学科建築学コース



物心つき始めた夏の暑い日に郵便を見に行った。その頃我が家には何故か袖壁のついた三尺角もある大きな大谷石の門柱があった。袖壁の厚い大谷石をくり抜いて郵便受けが作られていたがその中で蛇が涼しげにに蝸居を巻いていた。それが私の記憶の中の大谷石との出会いである。宇都宮大学に赴任したのが1981年、栃木には日光と益子と大谷石があるが益子焼きでは専門の建築の研究はできそうもないので、日光東照宮と大谷石の研究を始めた。大谷石については物理的性状実験や石蔵の構造調査の研究を10年ぐらい続けた。1986年屏風岩の地下探掘跡で日本建築学会主催の「世界の地下住居展」を催したが千人を超える参加者があった。近年、大谷石研究会ができあらためて大谷石を見直している。大谷が世界遺産に登録できればよいと思っているがそのためには大谷の人達が目先にとらわれず少し長い目で見て一つ方向を模索していくことが大切だと思っている。

東齋堂 国登録有形文化財 小野口家住宅 画廊と庭園 〒321-0344宇都宮市田野町885 TEL 028-652-0407 FAX 028-652-6360

大谷石と共に150年 採掘販売事業部・石材加工事業部・砕石加工事業部 設計・施工 有限会社 高橋佑知商店 本社 宇都宮市大谷町350番地 TEL 028(652)0005(代表) FAX 028(652)0192

豊かな未来と快適空間の創造 総合建設業 丸山工業株式会社 代表取締役 渡邊 征夫 本社 宇都宮市鶴田町1960 TEL 028-648-2920(代) FAX 028-648-6213

大切にしますパートナーシップ 印刷技術がいかに進歩しようとも 技術表現の根幹は「心」であると考えます 印刷のご用命は 株式会社 新光社印刷 〒321-0811 宇都宮市大通り2-4-1番地 TEL 028-633-4718(代) FAX 028-637-3981